

令和7年度多職種連携研修会アンケートまとめ

1. 実施概要

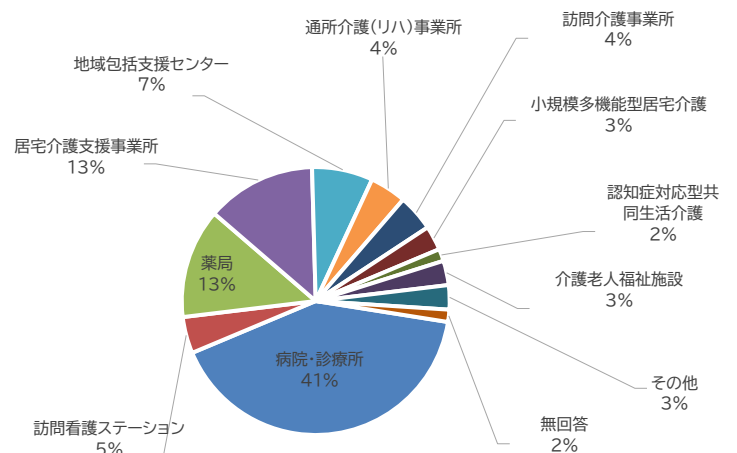
開催日	令和7年11月6日(木) 午後6時30分から午後8時
場所	大崎市役所 301・302会議室
参加者	申込者79名 欠席者9名 参加者70名（スタッフ含む79名）
テーマ	「災害時に備える多職種連携」
回答数	67件（回収率95%）

2. 集計結果

1. あなた自身について

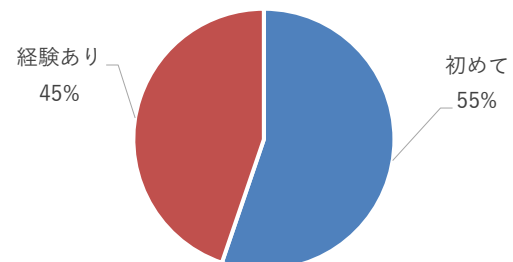
①参加者所属

医療関係	病院・診療所	27
	訪問看護ステーション	3
	薬局	9
介護関係	居宅介護支援事業所	9
	地域包括支援センター	5
	通所介護(リハ)事業所	3
	訪問介護事業所	3
	小規模多機能型居宅介護	2
	認知症対応型共同生活介護	1
	介護老人福祉施設	2
	その他	2
その他	無回答	1
計		67



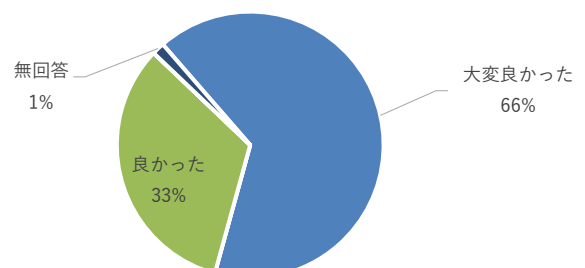
②参加状況

参加は初めて	37
過去に参加経験あり	30
計	67



2. 本日の研修について

大変良かった	44
良かった	22
ふつう	0
無回答	1
計	67



2、本日の研修について「大変良かった」「良かった」を選んだ理由（要点まとめ）

① 多職種との交流・意見交換ができて良かった

- 様々な職種の意見を聞くことができ、新たな発見があった。
- 多職種からの意見や情報を共有でき、勉強になった。
- 他の職種の方の考え方や視点を知ることができた。
- 普段関わりの少ない職種の方と直接意見交換ができた。
- それぞれの立場や役割の違いを理解する機会になった。
- 自分の職種のイメージと異なる考え方に気づかされた。

→ 相互理解と視野の拡大に繋がる学びが多く得られた。

② 顔の見える関係づくり・つながりの実感

- 他職種との顔の見える関係ができた。
- つながりが広がり、今後の連携につながると感じた。
- 地域との関係づくりの一步となった。
- 「助け合える関係性」や「地域連携の重要性」を改めて感じた。
- 同じ地域で活動する仲間としての意識が高まった。

→ 多くの参加者が、他職種の立場や考え方への理解が深まったと回答しており、研修目的である“顔の見える関係づくり”が達成されたことがうかがえる。

③ グループワーク形式・運営への評価

- 発表がなく、自由に意見交換できた点が良かった。
- 発表準備がない分、テーマに集中して話し合えた。
- 活発な発言があり、参加しやすい雰囲気だった。
- グループに多職種が混ざっており、良い構成だった。
- ざくばらんに話せる雰囲気で参考になった。

→ グループワーク形式が参加者同士の交流を促し、意見を出しやすい環境づくりに寄与した。

④ 学び・気づき・意識の変化

- 災害時対応への意識が高まった。
- 地域の実情や他職種の取り組みを知ることができた。
- 自職場や地域での対応に生かせる具体的な視点を得た。
- 職種によって必要な情報が異なることを再認識した。
- 「机上の理論」ではなく現場主体の学びが得られた。
- まだ知らないことが多く、学びが深まったと感じた。

→ 現場に根ざした内容として、実践的であったとの評価が目立つ。

⑤ 今後への期待・課題

- 共通で使用できる連絡票などがあると良い。
- 今後も多職種での意見交換の場を継続してほしい。
- 災害時など、全体が連携を取る方法を考える必要がある。
- 自地域の仕組みや他自治体との違いを知る機会になった。
- 今後の地域包括的な協働に活かしていきたい。

→ 今後は、地域差を踏まえた情報共有体制の整備や、共通ツール・ルールの検討が求められる。

⑥ 総括的な印象

- 多職種交流を通じて学びと気づきが多く、「顔の見える関係づくり」に大きく寄与した研修であった。
- 発表なしのグループワーク形式が好評で、参加者が主体的に話し合えた。
- 今後の地域連携や災害対応などの実践につながる有意義な機会だった。

→ 本研修を通じて、多職種間の顔の見える関係づくりが進み、災害時・平時を問わず連携して支援していく基盤づくりに繋がったといえる。今後も、今回得られた意見や気づきを活かしながら、より実践的な多職種連携の強化に取り組むことが期待される。

3. 「本日の研修内容を自身の仕事に活かす場面はあるか？」回答まとめ

① 情報共有・連携強化に活かしたい

- 多職種間での情報交換を深めたい
- ケアマネジャーとの共有、連携の強化
- 顔の見える関係構築に役立つ
- 在宅・在院・訪問看護・薬局など、立場を超えた連携構築
- 災害時多職種連絡票の活用を希望
- 地域ケア会議等で今後検討していきたい
- 自治体をまたいだ連携にも応用できると感じた

② 災害時の対応・備えの強化

- 事業所や病院の BCP 作成・見直しに活かしたい
- 災害時の自分の動き、役割を考えるきっかけに
- 安否確認体制の再検討
- 多角的な（多職種視点を含む）災害訓練の必要性
- 福祉避難所、個別避難計画の理解向上
- 医療依存度が高い患者への対応や準備に役立つ
- 難病や支援が必要な方の優先順位づけや支援体制について考えるきっかけに
- 今後起こり得る災害への備えができる
- とにかく「準備」が重要という気づき

③ 業務への具体的活用

- 退院支援、担当者会議などでの活用
- 基本情報の項目追加や情報整理の改善
- 在宅患者への災害備蓄の指導に役立つ
- 高齢者・障がい者の避難支援に役立つ
- 日々の通常業務にも生かせる
- 薬局では、薬剤情報の残し方・お薬手帳の活用に応用できる
- 災害時に薬局で何ができるかを想定し備える
- 資料やひな形の活用により業務改善が可能

④ 研修や講習への還元

- 法人内で伝達講習を行い、スタッフ教育に活かす
- 災害支援 NRS 研修への応用
- 職場内での災害訓練の必要性を提起したい

⑤ 意識の向上・学び

- 災害対応への意識が高まった
- 情報の重要性を認識した
- 多職種が置かれている状況を知り、理解が深まった
- 今回の資料の運用方法について具体的に考える機会となった
- まだ具体的ではないが、今後活かせると感じる

→参加者の多くが、「連携・情報共有の強化」と「災害時の備え・BCPの整備」に強く活かしたいと考えており、さらに在宅支援・退院支援・薬局業務など日常の仕事にも応用できるという前向きな意見が多く見られた。

4. 研修の感想や、今後多職種連携研修会で取り上げて欲しいテーマ

① 研修の感想

- グループワークが楽しく、有意義な学びが得られた。
- 多職種の意見や実際の体験談が参考になった。
- 災害対応の難しさや知識不足を実感した。
- 身寄りのない方や意思決定が難しいケースへの支援に課題を感じた。
- もっと話し合う時間が欲しかったとの意見。
- 運営への感謝の声。

②今後取り上げてほしいテーマ

- 災害対応・災害 BCP の実務的内容の継続。
- 実際の災害事例・体験談の共有。
- 学童支援に関するテーマ。
- 町内会など地域との連携方法。
- 今回の災害×多職種連携テーマの継続深化。

3. まとめ

今回の研修では、地域における多職種連携や災害対応をテーマに、グループワークを中心とした意見交換を行った。参加者からは、多職種との直接的な交流や情報共有の機会を得られたことに対する高い評価が多く寄せられた。本研修を通じて、多職種間の顔の見える関係づくりが進み、災害時・平時を問わず連携して支援していく基盤づくりに繋がったといえる。今後も、今回得られた意見や気づきを活かしながら、より実践的な多職種連携の強化に取り組むことが期待される。また、参加者の多くが「連携・情報共有の強化」や「災害時の備え・BCP の整備」に役立てたいと回答しており、さらに在宅支援、退院支援、薬局業務など、日常の業務にも応用できるという前向きな意見が多く見られた。